

【浄化槽 改善事例】 放流マス水位低下について

放流マス(浄化槽から放流先までに設置するマス)には、底部に泥溜めを設けたマスが用いられることがあります。この放流マスは経年劣化や配管との接合不良により、配管とマスの隙間から処理水が漏出することがあります。

生活排水は一人 200L/日使用されると言われています。放流水が漏出した場合、程度によっては周辺地盤の沈下やコンクリート等の舗装が破損するなどの原因となります。

合併処理浄化槽へ作り変えた際に既存マスを流用したり、管きよを施工し長期間経過した場合だけでなく、FRP製の放流マスでも接合不良や接合部分の劣化等により発生するため、注意が必要です。

放流マスの水位低下が確認された場合、施工業者や保守点検業者と相談のうえ、モルタルや樹脂等で漏出の原因となる部分を塞ぐ必要があります。

正常時

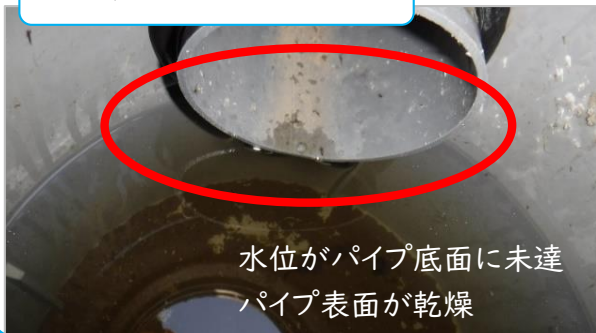


水の流れ



本来はパイプを通り排水されますが、パイプと壁面に隙間が生じた場合はそこから排水されるため、水位が正常位置よりも低下します。

FRP製放流マス 水位低下



水位がパイプ底面に未達
パイプ表面が乾燥

コンクリート製放流マス 水位低下



パイプとの接続部に隙間が発生し漏出

①水位低下確認



パイプまで未達

②注水時



正常位置まで注水

③注水後水位低下



管底以下まで
水位低下

【放流マス水位低下の確認方法について】

放流マスの水位が管底よりも下に位置していた場合は、注水し正常位置まで水位を上げます。その際にパイプと壁面に隙間がある場合は、水位が低下します。

(蒸発等で異常ない場合は水位変化は無い)